

本態性高血圧発症ラット（SHR）の血圧上昇抑制におよぼす
 ギャバロン茶直接摂取の影響
 大妻女大家政 ○齊藤ひろみ 田村朝子 大森正司 相田浩
 農水省野菜茶試 深津修一 西条了康

目的 ギャバロン茶とは、製造工程中、摘採後に窒素ガス下に数時間放置されたもので、他の工程は全く通常の煎茶と同じ操作を経て製造された緑茶である。この窒素ガス下に放置することがこの茶の特徴で、同じ考えから、ギャバロン紅茶、ギャバロンウーロン茶も製造できる。また、ギャバロン茶は血圧上昇を抑制することを、動物実験、臨床実験で認め、報告してきた。また、茶の利用法としても、浸出液として利用するだけでなく、浸出液を活性炭で脱色し、無色透明の溶液として応用する方法、茶殻を乾燥して粉末として利用する方法、茶を粉末にして直接利用する方法などが考えられる。今回は、ギャバロン茶を以上の操作で様々な加工し、ラットに投与したところ、知見が得られたので報告する。

方法 1. 農水省野菜茶試に産する「やぶきた」を用い、1992年1番茶～3番茶で製造し試料とした。 2. 6週令SHRを1群10匹として、次の群を設けた。①日本クレア製餌料CE-2にギャバロン茶粉末を10%添加した区、②ギャバロン茶脱色液とそれにグルコースを添加した区、③ギャバロン茶浸出液とその溶媒分画液にグルコースを添加した区、これらを経時的に血圧、体重、飲水量、摂取量を測定した。

結果 1. ギャバロン茶粉末を添加した区においては、投与2週目で約15%の血圧上昇抑制効果が認められた。また、ギャバロン茶脱色液、溶媒分画液にグルコースを添加すると、血圧上昇抑制が相乗効果として認められた。